

いわき農林事務所ニュース

2006年 10月号



活動状況

- ・[ふくしま食農再生戦略を策定!](#)
- ・[緑と農の交流フェアを開催!](#)
- ・[普及事業外部評価第1回懇談会を開催!](#)
- ・[消費者のための有機栽培見学会を開催!](#)
- ・[田んぼの生き物引越し!](#)
- ・[田んぼの学校 その7](#)
- ・[食農教育・出前講座続々開催中!](#)

トピックス

- ・[集落営農塾が開催される!](#)
- ・[児童生徒木工工作コンクールが開催される!](#)
- ・[JAいわき市に「環境にやさしい米\(こめ\)づくり部会」が設立されました!](#)
- ・[第2回食農塾・タ-研修会開催される!](#)
- ・[新嘗祭献穀田で抜穂式が行われました!](#)
- ・[郷土食をつくる会が開催される!](#)

活動状況

ふくしま食農再生戦略を策定!

福島県は、「みんなで創る農業・農村3A運動」の後期対策において、重点的に進めるべき施策等を取りまとめた「ふくしま食・農再生戦略」を策定しました。

この「ふくしま食・農再生戦略」は、社会情勢の大きな変化、本県農業の状況の変化、食・農・環境を巡る状況が変化するなか、平成17年度から検討を実施してきたもので、持続的、発展的な独自の施策を早急に展開していく必要性から、農業者や消費者に対し、分かりやすく、かつ、将来の農業経営に意欲がもてるような、農業の目指すべき将来の方向を示したものです。

具体的には、戦略実現に向けた3つの柱と5つの具体的戦略、それを支援する食・農・環境ネットワークサポート体制の確立から構成されており、「食」「農」「環境」を一体のものとして、将来にわたって持続的に発展していくことを目指しておりますので、ご理解とご協力をお願い致します。

なお、ご意見やご提案を頂きたいと存じますので併せてご協力をお願い致します。詳しくは下記のホームページをご覧ください。

http://www.pref.fukushima.jp/norin/3a_activity/3a_activity.html

緑と農の交流フェアを開催!

9月30日と10月1日に、「緑と農の交流フェア」を”わくわく”いわき2006会場内(21世紀の森公園)で開催し、いわき地方の農林業に関する展示、試食や調理実演、クイズ大会を行い、いわき地方の農林業をPRしました。

会場に設置されたテント内において、トマトや梨(なし)、乾(ほし)シイタケなどの農林産物、当事務所が推進する「みんなで創る農業・農村3A運動」や「環境にやさしい農業」さらには「地産地消」など主な施策をパネルで展示するとともに、パンフレットやポケットティッシュなどを配布し積極的にPRに努めました。

新米(エコファーマー栽培ひとめぼれ)、しそみそ焼き(川部地区の伝統料理)、涼豊(福島県オリジナル品種)の試食は、「新米は甘みがあって美味しい!」「しそみそ焼きはおつまみに最適!」「涼豊はみずみずしくて美味しい!」などの意見が聞かれ大変好評でした。

いわき地方の農産物を使った調理実演では、うつくしま「食」「農」サポーターの北尾博水(ひろみ)さんが乾(ほし)シイタケやエリンギを使った「キノコと鶏(とり)肉のトロリーあんかけ」(9月30日)を、腕自慢料理サークルの皆さんが「しそみそ焼き」(10月1日)を、来場者に調理のポイントなどを説明しながら、それぞれ実演していただきました。

2日間(かん)で4回行ったクイズ大会も大変好評で、楽しいクイズを通していわき地方の農林業に理解を深めていただき、優勝者(しゃ)には新米(まい)5kg(エコファーマー栽培ひとめぼれ)、準優勝者(しゃ)には「こだわりの乾(ほし)シイタケ」をプレゼントしました。

10月1日は、ライシーホワイトの平河内麻美さんも会場を訪れ、新米の試食のPRやクイズ大会での出題を行い会場を大いに盛り上げて頂きました。また、会場内では、いわき市内の直売所等による農産物の直売も行われており、来場者(しゃ)は一足先に収穫の秋を楽しんでいました。



展示パネルを使ったPR

普及事業外部評価第1回懇談会を開催!

いわき農林事務所農業普及部では、いわき地域における普及指導活動の効果的推進と活動成果の広域的・効果的波及を図るため、平成17年度より第3者(しゃ)の公募委員等により懇談会を開催(かいさい)し、農業普及事業の外部評価を実施しております。

昨年度は、2回の外部評価懇談会を開催(かいさい)し農業普及事業に対する評価をいただき、本年度の普及指導活動等へ反映させていますが、本年度も外部評価懇談会を2回開催(かいさい)する予定です。第1回目の懇談会は、9月12日に県いわき合同庁舎において開催(かいさい)し、委員5名全員が出席しました。

当日は、「平成17年度外部評価に基づく改善状況」と「平成18年度普及指導計画及び中間実績」について検討がなされ、「直売所においても商売として捉えるような経営感覚が必要であり、経営セミナー等での意識付けが必要」などの意見が出されました。

今後は、今回出された意見等を今後の普及指導に活かすとともに、来年2月に第2回懇談会を開催する予定で、年間活動実績について評価して頂く予定となっています。

[改善計画及び改善状況はこちら](#)

(PDF形式になっております。Adobe Reader(アドビリーダー)が必要です。)



活動成果報告の様子

消費者のための有機栽培見学会を開催！

9月16日、有機農産物販路開拓交流会「消費者のための有機栽培見学ツアー」を開催し、市内から一般消費者や学校栄養士など30名が参加しました。この交流会は、有機農産物の栽培状況の見学や生産者との交流を通じて、有機農産物に対する消費者の理解を深めてもらうことを目的としており、昨年に引き続き2回目となりました。

まず最初に、有機栽培実証ほ場である山田町の坂本和雄さんのねぎ畑を見学しました。坂本さんからは、有機栽培における雑草を防ぐ工夫や肥料の種類、普通のねぎと比較した食味などについて、苦労話を含めて説明がありました。また、現在のところ、市内の有機農産物の流通量が大変少ないこともあって、「どこで買えるのか」「価格はどのくらいか」等、購入に関する質問も多く出ました。

次に訪ねた常磐藤原(わら)町の滝正嗣さんの水稲有機栽培実証ほ場では、特にやっかいな雑草の駆除や、農業用水を浄化するための活性炭の使用など、通常の栽培にはない工夫がたくさんあるとの説明に、参加者は特に興味を引かれていた様子でした。また、刈り取り間近(まじか)であったことから、「無事に収穫できますように」「ぜひ、味わってみたい」との声もありました。

その後、三和(みわ)町の農家そば屋で、地元産のそば粉・野菜を用いた料理を食べながら、地産地消の取り組みについても紹介しました。最後に、参加者は「三和(みわ)の里直売所」で珍しい新鮮な野菜や加工品の買い物を楽しみました。参加者の中には、農業生産現場を訪ねるのが初めてという方(かた)もあり、この交流会を契機に、有機農産物や農業等に対する関心がさらに広がることを期待されます。



滝さんのほ場での説明

田んぼの生き物引っ越し！

経営体育成基盤整備事業(旧ほ場整備事業)合戸地区の工事に先立ち、工事区域内にいる生きものたちへの影響を最小限にするため、安全な場所へ移動させる「生きもの引っ越し」を、9月8日に永戸小学校の1・2年生14名が行いました。

まず、水路内にザルを手で押しつけ、生きものがザルに入り込むよう、足で追い込んでいく方法で、生きもの捕りに挑戦しました。全児童が捕獲に成功しましたが、捕れたのはほとんどがドジョウでした。体長10センチを超える大物をすくい上げたときは、「これが一番デッカイ!」「うわぁ~大きい!」等と、児童達は興奮した様子でした。

次に、幅40cm程度の土(ど)水路に前日仕掛けておいたカゴ網を引き上げました。小さな土(ど)水路でしたが、意外にもドジョウとアカハライモリがたくさん入っており、児童たちは驚いていました。その後、昨年度工事が完了したほ場と今年度工事するほ場を見学し、工事を実施するとどのように改善されるか学習しました。

最後に、捕獲した生きものたちを保全池まで運び、2人1組になって「元気に育ってね!」「がんばれー!」等と声を掛けながら放流しました。この池で生きものたちが育ち、さらに繁殖することを期待したいと思います。



田んぼの生き物の引っ越し作業

田んぼの学校 その7

渡辺小学校の「田んぼの学校」において、9月28日に5年生児童14名が「ハセづくり、稲刈り、ハセ掛け」を行いました。

まず、ハセの役割と作り方について学習しその後、実際に「ハセづくり」を行いました。児童達は、3本の木を結わえて脚をつくり、その上にハセ木を乗せてしっかりと固定していました。

稲刈りは、ふくみらいの刈り取りを行いました。田んぼの学校では、まんげつ(もち米(こめ))も作付けしていますが、稲刈りの適期には早いため今回は見送りました。

前日の雨の影響で足場が悪く、転んだり、長靴が抜けなくなったりして、助けを呼ぶ児童が続出しました。さらに、バインダーもむかみにはまって思うように動かず、ほとんど手刈りすることになりましたが、音(ね)を上げる児童はいませんでした。また、稲株の上を歩いた方が歩きやすいことや、刈った稲の穂先を稲株の上に乗せれば穂が濡れないといった知恵も学ぶことができ、晴れの日よりも収穫の多い稲刈りとなりました。その後、刈った稲から、順々にハセ掛けしていきました。途中、脚が折れてハセが倒れるというハプニングが起きましたが、簡単にいかないところが、機械作業にはない"手作業の面白いところ"です。田んぼの学校の次回活動は、10月31日の「脱穀」です。児童達が千歯扱(せんばこ)き等のいろいろな道具での脱穀に挑戦します！



みんなで楽しく稲刈り！

食農教育・出前講座続々開催中！

いわきの郷土食を体験 ～ 好間(よしま)第一小学校6年生

9月6日、好間(よしま)第一小学校において、総合学習の一環として「地元の食材・旬を知ろう」をテーマに6年生47名がいわきの郷土食を体験しました。講師は、いわき生活研究グループ連絡協議会の3名と農林事務所職員で、今回の体験は、「いわきの郷土食をつくる会」の活動を知った好間(よしま)第一小学校から要望があり実施されました。

7月に引き続き二度目となる今回は「月見の膳」と題し、お月見について説明し、お供えも行いました。また、今回使用した食材の中でズイキや里芋について紹介し、また米(こめ)の用途の幅広さを知ってもらおうと様々な米(こめ)粉の種類について説明しました。

その後は班に分かれて「サンマのポーポー焼き」「のっぺい汁」「白和え」「衣かつぎ」「月見団子」を調理実習しました。子供たちは積極的に粉をねったり、すりこぎを一生懸命すったり、材料を細かく刻んだり実習に取り組んでいました。

実習のあとのアンケートでは、「うちでも作ってみたい」、「ズイキを初めて知った」、「月見団子おいしかった」等の回答がありました。講師の生研グループの皆さんも児童達の反応が良く元気づけられた様子でした。

「子供たちに古くからの行事やそれに伴う郷土食、旬の食材、自分たちの作った米(こめ)や野菜を食べさせたい」という生研グループの皆さんの思いと子供たちの思いが通い合った一日でした。次回は1月に「旧正月の膳」を予定しています。



すりこぎを使って実習！

森林について学ぼう1 ～ 小名浜第二小学校 ～

9月8日、いわき市常磐湯の岳山荘周辺の森林において、小名浜第二小学校5年生92名を対象に森林環境学習が行われました。今回は、『川の水の秘密を探る』をテーマに、「川の水はどこからくるのか」や「森林のはたらき」を知ることが目的です。

児童たちは、10名程度の班に分かれ、農林事務所職員及びNPO法人いわきの森に親しむ会会員の指導により、沢の水が流れている場所や土の断面を観察し、雨が集まって川になり、海に注ぎ込むことや落ち葉が徐々に分解されて、スポンジのようになった森林の土には水を貯える役割があること、また森林にはたくさんの種類の樹木があることなどを学びました。

当日は、小雨がぱらつくあいにくの天気でしたが、児童たちは、針葉樹と広葉樹の森林を見比べ、全く違う印象に驚いたり、沢の水や土に直接触れることで、森林を身近に感じている様子でした。



沢水を直接触る児童達

森林について学ぼう2 ~ 植田中学校 ~

9月22日、いわき市立植田中学校1年生5名を対象に、いわき市の森林や木材の利用などについての学習が、県いわき合同庁舎で行われました。

はじめに、いわき農林事務所から森林・林業に関する仕事やいわき市の森林面積などの森林現況について説明を受け、その後、森林の手入れの方法、どんな木を木材として利用しているか、いわき市に多いマツ林をどのように守っているかなどについて学習しました。

木材の学習では、スギやヒノキなど、いわき市でよく生産される木のサンプルを使い、それぞれの香りや重さ、ぬくもりなどを確かめてもらいました。

生徒からは、森林保護の取り組みについての質問が出され、農林事務所職員がマツ林を守ったり、間伐などの森林整備を行い、健全な森林に育てるなどのほか、保安林に指定して森林を守っていることを説明すると、生徒たちはメモを取るなど熱心に聞き入り、いわき地方の森林林業に理解を深めた様子でした。



森林の手入れについて学習する生徒達

畜産の職場体験学習（いわき家畜保健衛生所） ~ 植田中学校 ~

9月21日、植田中学校の1年生4名が、職場体験学習として牛乳生産工場（木村ミルクプラント（株））、酪農家（四倉町）、肉牛肥育農家（四倉町）と家畜保健衛生所を見学しました。

木村ミルクプラント（株）では、工場の内部を見ながら、農家から運ばれた生乳が、殺菌、瓶詰めされる過程について、説明を受けました。見学の後、生徒達は、おいしい牛乳をご馳走になりながら「牛乳をつくるってこんなに手間がかかるんだ～」と感心しきりでした。

酪農経営の丹野巖さんのお宅では、ホルスタインを前に、丹野さんから、搾乳の方法、エサの種類、子牛の育て方、人工授精等について詳しく説明を受けました。実際にミルクカーに指を入れてみて、その吸引力に驚いたり、青草とグラスサイレージの臭いをかいだり、生徒達には初めての体験ばかりで、興味深（ぶか）げに丹野さんに質問していました。

丹野さんから「牛乳の消費が少なくなって、牛乳を捨てている。」という話を聞いて、子供達は神妙な面持ちでした。

肉牛肥育経営の新妻晃さんのお宅では、セリ市場で買って来たばかりのやんちゃ盛（ざか）りの子牛や、出荷間近の大きな牛を両側に見ながら真ん中の通路を歩いた生徒達は、さすがにドキドキしたようでしたが、牛にペロペロと手をなめられると表情が一変、あっという間に牛と友達になっていました。

最後に、いわき家畜保健衛生所では、BSEや鳥インフルエンザの検査等の業務概要を説明した後、放牧牛の血液標本を顕微鏡で実際に観察してもらったり、細菌検査作業を見学してもらいました。家畜保健衛生所の名前は初めて聞いたようでしたが、生徒達は今回の体験を通していわき地方の畜産について理解を深めた様子でした。

トピックス

集落営農塾が開催される！

いわき市地域担い手育成総合協議会が主催する「集落営農塾」は8月28日の開講式を皮切りに6回開催されました。

講座は事例発表、講演、演習、グループ討議の形式で開催され、様々な取り組み事例も紹介されました。また、グループ討議では「なぜ、集落営農が進まないか」をテーマに参加者の考え、悩みなど活発に意見交換されました。

地域リーダー、認定農業者等が参加し、閉講式には5回以上出席した受講生28名に修了証書が授与されました。

今後、参加者が自分たちの地域へ受講成果を持ち帰り、集落営農の取り組みに向けた活動の促進につながるよう期待されます。



第3回グループ討議の様子

児童生徒木工工作コンクールが開催される！

木の良さを再発見するとともに、児童生徒の造形能力の発達を目的とした「第12回いわき市児童生徒木工工作コンクール」の展示会が、福島県木材青(せい)壮年協会いわき支部の主催により、9月9日、10日の2日間(かん)、いわき市平の藤越・スーパーセンター谷川瀬(やがわせ)店の2階催事場で開かれました。

コンクールには、いわき市内の小学校39校より864点の作品が応募され、その中から491点の作品が展示されました。展示会に先立ち行われたコンクール審査会では、木の持つ質感をいかし、創意工夫の後を感じさせるいわき市立郷(さと)ヶ丘小学校3年生の折内裕太郎(おりうちゆうたろう)君(くん)の作品と、いわき市立小名浜東小学校6年生の鈴木滉大(だい)君(くん)の作品がいわき農林事務所長賞に輝いたほか、併せて54点の作品が優秀作品として選ばれました。展示会では、自然木の風合いを活かした作品や大人顔負けの作品に、会場に訪れた大勢の親子連れや買い物に来た人が感心しながら見入っていました。

なお、優秀作品は、福島県児童生徒木工工作コンクールに推薦されるほか、10月に行われた福島県林業祭、11月に行われるいわき産業祭においても展示されます。



鈴木滉大(だい)君(くん)の作品「いけいけくじら君(くん)」



折内裕太郎(おりうちゆうたろう)君(くん)の作品「足木の自転車」

「Aいわき市に「環境にやさしい米(こめ)づくり部会」が設立されました！

9月13日、JAいわき市本店でJAいわき市環境にやさしい米(こめ)づくり部会設立総会が開かれました。部会を設立したのは、エコファーマーと特別栽培者の稲作農家55名の方々です。

今後の方針について、熱心な議論が行われ、平成21年までにエコファーマー米(まい)と特別栽培米(まい)の栽培面積を、水稲作付面積の8割まで増やそうという意欲的な方針が採択されました。そのため、良質米(まい)生産のための栽培技術指導会の開催や、栽培管理日誌の記帳徹底、土づくりの取り組みなど、積極的な部会活動を行うことが確認されました。

また、部会として統一したエコファーマー米(まい)と特別栽培米(まい)の表示に取り組むこととなりました。マークを表示し、環境にやさしい米であることが一目でわかるように販売するため、一般米(まい)との差別化が図られ、ますます評価が高まることでしょう。

今後、更に部会員が増え、環境にやさしい米(こめ)づくりの輪が広がることが期待されます。



設立総会の様子

第2回食農サポーター研修会開催される！

9月20日、第2回うつくしま「食」「農」サポーター研修会が開催され、県内各地から27名のサポーターがいわき市を訪れました。この研修会は、サポーターの資質向上とサポーターどうしの情報交換を目的に、年間3回の計画で県流通消費グループが主催したものです。研修会は、午前中に県産農林水産物を使用した郷土食の調理実習を小名浜公民館で行い、午後からは(株)夕月のかまぼこ製造工場(泉町)を見学しました。

調理実習では、いわき市漁業協同組合女性部久之浜(ひさのはま)支部の江川支部長が「カレイの南蛮漬け」と「イカとポテトのハンバーグ」、地域興しマイスターの鈴木真也氏が会津地方の「こづゆ」について、実演を交えながら研修を行いました。

(株)夕月では、かまぼこの歴史や、製造工程(こうてい)、衛生管理の徹底などについて詳しく説明を頂きながら工場を見学しました。また、水産事務所の鷹崎(たかさき)主査から「福島県の水産業の特徴と水産物の栄養等」について説明がありました。

参加者は、いわき地方ならではの新鮮な魚を使っでの調理実習や初めて見学するかまぼこの製造工程(こうてい)などを真剣に研修しながら、情報交換も盛んに行われ、今後のサポーターの活躍が益々期待されるそうです。



調理実習の様子



完成した「カレイの南蛮漬け」など

新嘗祭献穀田で抜穂(ぬきほ)式が行われました！

9月25日、いわき市渡辺町で、新嘗祭に献上する献穀米(まい)の収穫を祝う抜穂(ぬきほ)祭が古式ゆかしく行われました。

本年は7月と9月に長雨が続き、いわき市内の水稲も、いもち病(びょう)や倒伏の被害に見舞われましたが、献穀田(でん)の生育は順調で黄金色に実っていました。

多くの人々やテレビカメラが見守る中、厳かな神事に引き続き、5月に御(お)田植えを行った早乙女5人が、今回は刈女となり、本県オリジナル品種「ふくみらい」の稲株を丁寧に刈りました。収穫された



刈女(かりめ)による収穫作業

献穀米(まい)は、10月23日に皇居で行われる献穀献納式で献上されました。また、会場では渡辺小学校の児童が豊年太鼓を勇壮に演奏し、雰囲気盛り上げました。

郷土食をつくる会が開催される！

9月26日、「いわきの郷土食をつくる会」が三和(みわ)ふれあい館でいわき地域生活研究グループ連絡協議会地場消費部会主催により開催されました。

今回のテーマは「山里の膳」で、14名が参加し今回は男性2名も参加しました。この会は「つくる」「味わう」「買う」の3つの体験をするもので、今年度は4回目の開催になります。

「つくる体験」では「かぼちゃ大福」「きゅうりの辛子漬け」を体験していただきました。参加者は、かぼちゃの自然な色に感動しながら一生懸命つきあがったもちを丸めていました。「味わう体験」ではおから炒り、黒豆ご飯、ぜんまいの油炒め、ふきとうどの煮物など山里の味を堪能しました。「買う体験」ではお茶請けにも出された、担当グループの作った漬け物を買求める人も多くいました。



かぼちゃ大福をつくる体験

今回は初めての参加の方(かた)も多く、「ぜひ次回も参加したい」との声もあり、グループ員の励みになりました。次回は10月24日に今回と同じ三和(みわ)ふれあい館を会場に「きのこ膳」をテーマに開催します。

◀ もどる

すすむ ▶

[[Top](#) [福島県トップページ](#) [いわき農林トップページ](#)]